

## ● 他の国から、自分自身を見つめてみよう！

How should young people in Japan be employed? I think it is because of the elderly, robots may take the place of young people in the future. We are less efficient than robots, and have less experiences than older people. But we can support older people by medical care, and making better robots. So, I think we should learn more technical skills and search for the jobs we can do.

I think Japan has good doctors and hospitals. But it has many elderly people, too. So we have to think of how all of us can live in the world. Japan can make many good robots, and they can use robots to help elderly people and other people, too. Japan's population is decreasing. It is a bad point in this country, but we should change as the times change.

●課題● “Japan” (Oxford University Press) Chapter 11 The Future of Japan を読み、あなたの感じたことを50語程度の英語で書きましょう

英語の週末課題として、皆さんには50語程度の英文を書いてももらっていますよね。

前回のテーマ、「今後の日本はどうあるべきか」は難しい内容にもかかわらず、よく書かれていました。特に私の琴線に触れた2作品を紹介します。皆さんも渡航時に、ぜひこのような社会的問題について、現地生徒や、ホストファミリーと話をしてみてください！

(水戸)



## 英語の週末課題から

文化の違いや現地での交流を大いに楽しんで来てください。そして、今後もずっと続く関係ができれば、この経験は一生の宝物になるはずです。私も今でもホストファミリーとはつながっています。驚いたこと、感動したことなど、その貴重な体験を忘れないように記録に残すことをおすすめします。(笹山)

本番がいよいよ近づいてきました。準備はOKですか？今まで準備してきたことを存分に発揮してみよう。まあ、なんとかなる。楽しむ気持ちを持って取り組もう。私も毎日の通勤でスピードラーニングを聴いてきました。英語力を深められるようにともに頑張りましょう。(栞尺)

いよいよ皆さんの英語力を試す時が来ましたね。失敗してもめげずに、果敢にチャレンジしてみてください。毎日が新しい発見の中で、きっと新しい自分にも出会えるはず。私も苦手な英語が少しでも克服できるように素晴らしい海外研修にしたいと思っています。一緒に頑張りましょう！(細川)

国際交流・異文化交流というと、日本との違いに目がいき、思わず笑いそうになることが正直あります。しかしそれは現地で長年かけて築きあげられた文化や習慣であり、否定されるべきものではありません。「差異を受け入れ、楽しむこと」が皆さんがこれから広い視野を得る第一歩です。これと同時に不偏性や共通点も見いだされることを。お互いかけがえのない存在なのだ。よい研修にしましょう。プレゼン、楽しみにしています！(水戸)



## よい海外研修にしよう！



## 農業について

アルバイトで「ピッキング」という仕事をしたことがある。日本で「ピッキング」というと玄関の鍵をこじあけて家屋に侵入する違法行為を意味するのだが、まさかそれをアルバイトでやるなんてことはありません。「Picking」とは「摘み取る」という意味もあり、農場で野菜や果物を摘み取る仕事のことである。

さて、オーストラリアの野菜や果物は日本とは比べ物にならないほど安い。どうしてこんなに安いのか。実は理由があるので。農場のある田舎の近辺にユースホステル(バックパッカーともいう:素泊まりで一部屋に2段ベッドがいくつかあり、知らない人同士で同じ部屋に泊まる安い宿)があり、そこに主に海外からやってきた若者たちが宿泊しながら、その周辺地域の農場主によって日雇いで雇われるのです。始業時間は早く、朝3時から4時に集合し、農場主の車で農場まで行き、作業をします。涼しい時間にまとめてやって、お昼にはもう終わるのです。



## でかい!!

農場の規模がかなりでかいのにもびっくりしました。私が行った農場はトマト農場だったのですが、農場の端が見えないのです。見渡す限りトマト畑で「今日はこちらからあそこまででいいから」といいながら、終わりの見えない収穫をします。トマトってこんなに青いやつ収穫していいのかなと思っていたら、「いいんだよ、輸送の時間を考えれば青いやつを摘んだほうが。店に並んだときちょうど赤くなるから」だって。さすが大陸。どこまでどれくらい時間をかけて輸送するのかわからないけど。

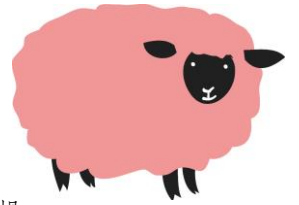
どんな人たちが働いているのかというと、実はヨーロッパ人の若者が結構いたりします。若い人が大学などの学校を卒業して、就職前の思い出作りだかなんだかわからないけど、20代前半くらいの方が結構いたりするのです。だから、英語じゃない言葉で話をしながら仕事をしていたりして、その地域はあまり日本人がいなかったものだから、コミュニケーションがとりづらく、結構ストレスがたまりました。このように、お金よりも「体験・経験」を重視する若者たちは、結構賃金は安くても文句を言いません。こんな若者たちの労働力を得て、店頭での低価格化の実現ができています。すばらしいですね。そして彼らの中には、ある程度金が貯まったらその土地から離れ、また少し都会で遊び、なくなったらまた別の農場へ行って野菜を取るということをしている人もいました。

なお、輸送に関して言うと、現在は人件費よりも輸送費のほうがかかる危険性があるとして、できるだけその地域で地産地消して輸送費を減らし、ガソリンによる二酸化炭素を減らしましょうといったキャンペーンもあるそうです。



## 羊のほうが人口が多い

オーストラリアでは人の数より羊の数のほうが多いのは結構有名な話であります。酪農のほうに目を向けてみると、やっぱりさすが大陸という大規模農場。4輪バギーで走りまわりました。



## 水を大切に

「大陸でするので、内陸部では特に水は限られた資源であるので、オーストラリアの人は節水している家がありますから、水を無駄遣いしないでくださいね。」といわれたことがあった。「まず、シャワーは4分以内に浴びてください。食器を洗っても泡はそのままに。」

「ん?」と思った。日本では皿洗いをするとき、皿を洗剤で洗うと水でその泡を洗い流すのは誰もがしていることである。(最近では自動の食器洗い乾燥機も出回り、かなり各家庭での使用率も高い)少なくとも私のステイ先では違った。

まず、汚れた食器はお湯を張った洗い桶に洗剤を入れ、その中に入れる(水は出しっぱなしにしないで止めておく)。そして、スポンジやたわしで洗い、そのまま洗剤(=泡)を残しつつ、水切りカゴの中に入れる。いわゆる「泡きりカゴ」である。「え、Don't you rinse them?(洗い流さないの)」と聞くと、「大丈夫よ、死なないから」といわれた。「あー、節水。やっぱり水って大切なんだな、この国では」と思った。その後、こっそり自分が使う皿だけ水で泡を流したのは言うまでもない。それから自分が洗い物をするとき、こっそりと可能な限り泡は流していた私であった。

次の日、いい気分で家の裏庭に出てみると、カタカタと音がする。何かかかっていると、芝生にたつぷりとスプリンクラーで水をやっていて、その音だった。「あー、なるほど。芝生が枯れたらいけないからね」と思った。「人間よりも芝生かあ…」複雑。

シャワーといえば、あるユースホステルで同室になったイギリス人と思われる男性が、シャワーを浴びてくるといって出て行った。1~2分ほどしたら帰ってきたので忘れ物をしたのかかと思っていたら、浴び終わったとのことであった。「どこ洗ったの?」みたいな速さだった。恐るべし。



## 各家庭に貯水タンク? 裏庭にヒルズホイスト

水を大切にするので、雨水もしっかり利用する。だいたい各家庭の裏にけっこうでかい貯水タンクがあり、トイレ等に関しては雨水を利用していた。それから裏庭といえば、ヒルズホイストといわれる洗濯物干しがある。高さを変えられたりするので便利なものであるが場所をとるので、広い庭でないと設置できません。

(フリーのイラスト素材集を利用しています)

## MR. LARRY のオーストラリア日記

### 農業と水事情

# 3

★よい研修を! Bon voyage! ★

執筆: 森平雅人先生

(現 新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室主任調査員)